

北広島町におけるノハラツグミの初記録

佐藤 周平

広島市安佐北区

The first record of Fieldfare *Turdus pilaris* in Kitahiroshima town, Yamagata district, Hiroshima prefecture.

Shuhei SATO

報告

ノハラツグミ *Turdus pilaris* は、ヨーロッパ北部、中央部からバイカル湖付近やシベリア東部で繁殖し、ヨーロッパからトルコ、イランにかけての地域で越冬するスズメ目ヒタキ科の鳥類である（園部 1997；日本鳥学会 2012）。日本国内では 1960 年に長野県で初めて記録され（清棲 1978）、主に冬季の東日本において稀に観察される迷鳥とされている（日本産鳥類記録委員会 2003；日本鳥学会 2012）。広島県での記録は 2010 年の庄原市での初記録のみであったが（日本野鳥の会ひろしま 2011）、2019 年 12 月に北広島町で本種を確認し、北広島町における初記録となるため報告する。

今回、ノハラツグミが確認された場所は広島県北西部に位置する北広島町の臥竜山麓八幡原公園である（34°42'56"N 132°11'45"E, 標高 804m）。確認された環境は車道脇に位置し、湿原と針葉樹林の境界部で、低木層ではアカマツ *Pinus densiflora*, カラコギカエデ *Acer ginnala* var. *aidzuense*, カンボク *Viburnum opulus* var. *sargentii* など、草本層ではススキ *Miscanthus sinensis* などが生育している（図版 1-A）。なお、確認時の天候は晴れ、積雪はなかった。

2019 年 12 月 20 日、午前 7 時 40 分頃、1 個体がどこからか飛来し、カラコギカエデの上にとまった（図版 1-B）。確認すると、頭部や腰は青灰色、背は赤褐色、下面は白く、腮から腹上面や脇には黒褐色の斑、胸は橙色がかり、嘴は先端から上面が黒く、下面から基部は黄色かった（図版 1-B, C）。これらの特徴からこの地域で頻繁に観察される同属のツグミ *Turdus naumanni* やシロハラ *Turdus pallidus* と異なることは明らかで、ノハラツグミであると同定した。その後、この個体は 10～15 分程度の間、その状態で静止した後、「ジャジャジャ」と濁った声で鳴きながら飛び立ち、消失した。筆者はその後、1 月上旬にかけて何度かこの場所で鳥類を観察しているが、ノハラツグミは以後、確認されていない。

本報告を作成するにあたり、ご協力とご助言をいただいた認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会の上野吉雄氏に心からお礼を申し上げる。

引用文献

- 清棲 幸保（1978）増補改訂版日本野鳥大図鑑 I. 講談社，東京
日本鳥学会（2012）日本鳥類目録 改訂第 7 版. 日本鳥学会，三田
日本産鳥類記録委員会（2003）日本産鳥類記録リスト（2）. 日本鳥学会誌，52：44-51
日本野鳥の会ひろしま（2011）野鳥情報. 森の新聞，172：16.
園部 浩一郎（1997）ノハラツグミ.（日高 敏隆 編）日本動物大百科 4 鳥類，109. 平凡社，東京



A: ノハラツグミの生息環境 2020年1月4日
B: ノハラツグミ (背面, 確認直後) 2019年12月20日
C: ノハラツグミ (前面) 2019年12月20日